

# アクアリウム・ダイアリー

2022年6月～2022年8月

## 催し物

6月1日～  
～6月26日

マイワシのトルネード虹ver.開始  
季節展示  
「入れない! 捨てない! 拡げない!  
No More アメリカザリガニ」

7月18日～  
7月16日～8月31日

マイワシのトルネード夏ver.開始  
季節展示  
「Forever UNAGI～うなぎよ、永遠に」



7月18日～8月31日

夜間営業  
「ロマンティックアクアリウム」開催



7月30日、8月2日、28日  
8月1日～9月25日

「水族館deモーニング」開催  
特別展 開館30周年記念事業  
「出張! 藤前干潟@名古屋港水族館!」  
8月23日 藤前干潟ふれあい事業ワークショップ  
「水族館deトリのミニ模型塗り!」開催

### 【水族館スクール「君もドリトル先生になれるか!」】

7月31日	「飼育係のお仕事」	参加者12組35名
7月27日	「イルカ」	参加者11組34名
8月3日	「黒潮大水槽」	参加者12組40名
8月7日	「ペンギン」	参加者14組40名
8月17日	「シャチ」	参加者14組36名
8月21日	「飼育係のお仕事」	参加者13組35名
8月24日	「ペルーガ」	参加者15組37名
8月28日	「ウミガメ」	参加者11組36名



水族館deモーニングでは  
開館前の水槽の掃除なども見学



しおかぜ広場に設置された  
「しおかぜ金鯱水」

## 来訪者

6月1日～3日 | 名城大学 檜崎友子助教

6月29日 | 早稲田大学 石井裕之准教授

## 講演・その他出来事

### 【講演など】

6月16日 JAA人工授精シンポジウム参加  
(来場参加: 神尾高志、横田匠他、  
WEB参加: 阿久根雄一郎)

6月23日 中部獣医師研究会WEB (小谷由佳子)

7月8日 ペンギン飼育技術者会議 (材津陽介)

7月23日 エコパルなごやワークショップ開催

8月7日 あかばね塾主催「エコ・オリエンテーリング」

2021年生まれアカウミガメ1頭放流イベントに提供

### 講師派遣】

7月6日 名古屋市高年大学鯨城学園 (加藤浩司)

7月23日 北名古屋市生涯学習講座 (小倉仁)

7月24日 一宮地域文化広場 (加藤浩司)

### 【職場体験・職場訪問・水族館レクチャー(オンライン含む)】

| 29件 1417名

## 編集後記

開館30周年記念特別号をお送りいたします。開館時のドタバタもつい最近のようで、時の流れの早さを感じます。開館日当日は補充用の展示生物の採集で出張していたため、記念式典には参加できませんでしたが懐かしい思い出です。個人的には長年メインで担当してきたコーナー(分かりますか?)が今はないのが残念なのですが...これからも変化する名古屋港水族館にご期待ください!(春日井)

### 表紙写真【30周年】

この30年を振り返る写真を古い写真から最近のものまで30枚選んでみました。

ニュースレター さかなかな Vol.115 2022年秋  
発行/公益財団法人 名古屋みなと振興財団 名古屋港水族館  
〒455-0033 名古屋港区港町1番3号 TEL.052-654-7080  
URL <https://nagoyaaqua.jp>  
本誌の掲載記事、写真等の無断複写・複製転載を禁じます。

WEBサイト  
<https://nagoyaaqua.jp>  
(なお、一部の機種でご覧いただけません場合があります)



# さかなかな

2022 秋

Vol.115



### 特集

名古屋港水族館 開館30周年特集  
「年表と写真で振り返る30年」

- 水族館トピックス
- 水族館アカデミー ダーウィンの箱
- わたしのスケッチブック
- ボランティア便り  
私の館内おすすめポイント
- 水族館スクールレポート
- アクアリウム・ダイアリー



名古屋港水族館

# 名古屋港水族館 開館30周年特集「年表と 写真で振り返る30年」

1992~2001

名古屋港水族館は1992年(平成4年)10月29日の開館以来30周年を迎えることができました。今回のさかなかなの特集はこの30年間の出来事を年表と写真で振り返ってみようと思います。

1992年 (平成4年)	1993年 (平成5年)	1994年 (平成6年)	1995年 (平成7年)	1996年 (平成8年)	1997年 (平成9年)	1998年 (平成10年)	1999年 (平成11年)	2000年 (平成12年)	2001年 (平成13年)																							
10月29日 名古屋港水族館(南館)開館 10671人が入館	2月18日 入館者100万人達成	10月30日 開館1周年記念特別展 「オーストラリアの自然と生物」開催	3月20日~5月29日 特別展「サウスシエトランド諸島摂氏零度の夏」 「南極生物の採取調査記録」開催	7月21日 ボランティア活動開始。 サマースクールなどの補助。 その後水槽解説など活動拡大	10月25日~2月26日 開館2周年記念特別展 「名古屋港の生き物たち」開催	10月29日 開館3周年記念特別展示 「さかなのオスとメスの物語」 「一生の間に性別を変える魚たち」	10月25日~2月26日 開館4周年記念特別展示 「さかなのオスとメスの物語」 「一生の間に性別を変える魚たち」	10月24日 開館5周年記念特別展示 「生き物たちの不思議体験」開催	11月18日 アデリーペンギンふ化(日本初)	1月22日 ヒゲペンギンのヒナがふ化(日本初)	4月27日 世界で初めてアカウミガメが 室内人工砂浜で上陸産卵(7月1日這い出し)	6月8日 阪神淡路大震災援助、 須磨海浜水族園にヨスジフエダイ等を輸送	10月29日 開館6周年記念特別展示 「さかなのオスとメスの物語」 「一生の間に性別を変える魚たち」	2月23日 開館7周年記念特別展示 「さかなのオスとメスの物語」 「一生の間に性別を変える魚たち」	4月29日 ナンキョクオキアミの常設展示を開始、 世界で初	6月8日 入館者1000万人達成	8月1日 「ロマンチック・アクアリウム」開催	8月31日 夜の水族館	11月20日 名古屋港水族館、 バンクーパー水族館と姉妹水族館提携	5月28日 世界で初めてタイマイが室内人工砂浜で産卵、 ふ化に成功(7月24日這い出し)	6月2日 エンペラーペンギン6羽の飼育展示を開始	7月7日 特別展「むかし大陸は一つだった」 「大陸移動と生き物たち」開催	11月8日 特別展「むかし大陸は一つだった」 「大陸移動と生き物たち」開催	10月12日 名古屋港水族館がホストとなり 「第53回世界動物園機構名古屋年次総会」を 名古屋で開催	10月16日 名古屋港水族館がホストとなり 「第53回世界動物園機構名古屋年次総会」を 名古屋で開催	11月23日 「カナダ西海岸の生き物たち」 「シヤチのいる海」開催	2月27日 バンクーパー水族館姉妹提携記念特別展 「カナダ西海岸の生き物たち」 「シヤチのいる海」開催	3月18日 特別展「シヤチ海へ還る」 「迷入シヤチ救出とシヤチの生態」開催	4月9日 特別展「シヤチ海へ還る」 「迷入シヤチ救出とシヤチの生態」開催	10月20日 世界で初めて人工飼育下で ナンキョクオキアミのふ化に成功	2月20日 世界で初めて人工飼育下で ナンキョクオキアミのふ化に成功	6月24日 特別展「むかしペンギンは空を飛んでいた」 「ペンギンの進化と適応」開催



平成2年 財団法人名古屋港水族館  
(現 公益財団法人名古屋みなと振興財団)  
設立。



水族館建設に先立ち設置された  
生物保管棟(写真右の緑のテント)。



生物保管棟への魚の搬入。  
水族館建設後は順次水槽に展示された。



開館翌年より実施されたガイドツアー。  
イヤホンを着用しアクアフレンドの解説を  
聞く。



「イシダイのパフォーマンス」イシダイが  
色を識別しながらの輪くぐりや、迷路に  
挑戦。



93年から開催した子ども向けスクール。  
ボランティアも活躍。



開館記念式典でくす玉を割る  
内田至館長(当時)。



開館前後、5回にわたって行われた  
南極での生物調査。



南極の海底の様子。南館の南極水槽には  
当時採集された生物も健在。



赤羽根町(現 田原市)にウミガメの  
生態調査のための基地を開設。



平成10年に開催された  
世界動物園機構名古屋年次総会。  
海外からも多数の参加。



エンペラーペンギンの搬入。  
まだ幼鳥なので頭部の黄色い部分が白い。

2001年 (平成13年)	2002年 (平成14年)	2003年 (平成15年)	2004年 (平成16年)	2006年 (平成18年)	2007年 (平成19年)	2008年 (平成20年)	2009年 (平成21年)	2010年 (平成22年)	2011年 (平成23年)	
4月5日 バンドウイルカ6頭搬入 4月18日 ベルーガ5頭搬入 11月1日 名古屋港水族館北館開館 オープンングセレモニー開催	4月~7月19日 「クジラとイルカミニ講座」開催 7月25日・31日 ペンギン講座とイルカ講座開催 10月1日 「オキアミ資源研究に関する国際ワークショップ」開催 10月4日 水族館スクール 「君もドリトル先生になれるか!」開始 10月29日 開館10周年記念写真展「10年の歩み」開催 12月28日 NOAA(アメリカ海洋大気庁)と 衛星追跡装置を用いたアカウミガメの 太平洋回遊経路解明共同研究を開始	4月24日 シャチ「クワ」を和歌山県太地町立くじらの 博物館より搬入。世界初の船での輸送 10月29日 国内で初めてベルーガの繁殖に成功 7月17日 「ウミガメからのメッセージ」開催 1月1日~4月9日 特別展「カメの世界」 シャチ「クワ」のエンリッチメントに対する取り組み、 市民ZOOネットワーク「動物園」ミニディ賞受賞	1月1日~4月9日 特別展「カメの世界」 「ウミガメからのメッセージ」開催 4月9日 シャチ「クワ」のエンリッチメントに対する取り組み、 市民ZOOネットワーク「動物園」ミニディ賞受賞	11月 ナンキョクオキアミの長期飼育と継代繁殖で「古賀賞」を受賞 4月8日 特別展「エビとカニ人のかかわり」 エビづくりに「いかにも!」開催 1月1日 シャチ「クワ」のエンリッチメントに対する取り組み、 市民ZOOネットワーク「動物園」ミニディ賞受賞	5月23日 ナンキョクオキアミの長期飼育と継代繁殖で「古賀賞」を受賞 4月8日 特別展「エビとカニ人のかかわり」 エビづくりに「いかにも!」開催 1月1日 シャチ「クワ」のエンリッチメントに対する取り組み、 市民ZOOネットワーク「動物園」ミニディ賞受賞	11月 日本の海黒潮大水槽で「マイワシのトルネード」開始 3月18日 深海コーナーがリニューアルオープン 3月18日 特別展「深海探検いまむかし」開催 6月8日 特別展「深海の不思議に迫る」 ヒトデとそのなかまたち」開催 3月10日 特別展「海の五つ星 海のスター!」 5月10日 学術交流協定を締結 6月~11月 神戸大学・京都大学・岐阜大学と 特別展「冬こそ北海道 北の海の生き物たち」開催	2月21日 特別展「冬こそ北海道 北の海の生き物たち」開催 12月19日 当館初のペンギン屋外展示イベント 「ペンギンよちよちウオーク」を開催 2月13日 アカウミガメの繁殖と研究・保護活動で、 当館2度目の「古賀賞」を受賞 5月28日 特別展「海の野生王国」 「南部アフリカの生きものたち」開催 3月20日 COP10パートナーシップ事業として、 シンガポールでタイマイを放流 6月18日 シャチの「ナミ」搬入	6月18日 シャチの「ナミ」搬入 5月28日 アカウミガメの繁殖と研究・保護活動で、 当館2度目の「古賀賞」を受賞 3月20日 特別展「海の野生王国」 「南部アフリカの生きものたち」開催 2月13日 当館初のペンギン屋外展示イベント 「ペンギンよちよちウオーク」を開催 2月21日 特別展「冬こそ北海道 北の海の生き物たち」開催	6月30日 東日本大震災で被災した宮城県松島水族館へ 当館で繁殖したタイマイとクマノミを寄贈 3月19日 特別展「リトル・シー・ガーデン」 「海に咲く花 イソギンチャク」開催 8月24日 COP10パートナーシップ事業として、 シンガポールでタイマイを放流 6月18日 シャチの「ナミ」搬入 5月28日 アカウミガメの繁殖と研究・保護活動で、 当館2度目の「古賀賞」を受賞 3月20日 特別展「海の野生王国」 「南部アフリカの生きものたち」開催 2月13日 当館初のペンギン屋外展示イベント 「ペンギンよちよちウオーク」を開催 2月21日 特別展「冬こそ北海道 北の海の生き物たち」開催	12月15日 シャチファミリー3頭を鴨川シーワールドより搬入 8月17日 生態調査のため八重山諸島黒島にて 当館生まれのタイマイを放流 8月7日 特別展「Eusilurinae」マンギマンギ 「いきものたくさんマンブローブ」開催 7月16日 東日本大震災で被災した宮城県松島水族館へ 当館で繁殖したタイマイとクマノミを寄贈 6月30日 特別展「リトル・シー・ガーデン」 「海に咲く花 イソギンチャク」開催 8月24日 COP10パートナーシップ事業として、 シンガポールでタイマイを放流 6月18日 シャチの「ナミ」搬入



新たに建設された北館にバンドウイルカが搬入。



サンクトペテルブルグ(ロシア)の施設から運ばれてきたベルーガ。



南館開館から9年、ついに新館(北館)が開館。



ナンキョクオキアミ。日本動物園水族館協会から古賀賞を受賞。



幻想的な照明の中、35000匹のマイワシが美しく泳ぐマイワシのトルネード。



リニューアルされた深海コーナーではダイオウグソクムシの展示も始まった。



シャチのクワは和歌山と一緒に飼育されていたイルカとともに搬入。



日本初のベルーガの赤ちゃん「ベル」誕生。



シャチのクワの興味を引く子供たち。この活動が飼育動物のエンリッチメントとして評価された。



北館しおかぜ広場に白馬の雪を移送。屋外でジェンツーペンギンを展示。



アカウミガメの繁殖と研究・保護活動により2度目の古賀賞を受賞。



シャチのナミ。クワと同じく和歌山から船を利用した搬入。

2012年 (平成24年)	2013年 (平成25年)	2014年 (平成26年)	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (平成31年) (令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)
<p>3月17日 特別展「人の都合で侵略者(エイリアン)〜愛知の外來種〜」開催</p> <p>6月24日 特別展「名古屋港の生きもの〜都会の海で見つけた命〜」開催 シャチファミリー3頭を一般公開</p> <p>7月14日 特別展「名古屋港の生きもの〜都会の海で見つけた命〜」開催</p> <p>11月18日 開館20周年記念式典を開催</p> <p>10月28日 シャチの「リン」誕生</p> <p>11月13日 特別展「金魚らいふ〜観る・知る・飼う〜」開催</p> <p>9月1日 特別展「金魚らいふ〜観る・知る・飼う〜」開催</p> <p>3月19日 特別展「金魚らいふ〜観る・知る・飼う〜」開催</p>	<p>4月 法人サポーター制度を導入</p> <p>5月8日 パラオ国際サンゴ礁センターと友好交流協定を締結</p> <p>12月5日 大分マリンパレス水族館「うみたまご」と友好館締結</p> <p>12月20日 南館サンゴ礁大水槽がリニューアルオープン、生体サンゴの展示を開始</p> <p>12月20日 特別展「プレートバリアリーフの世界へ」開催</p> <p>3月8日 特別展「プレートバリアリーフの世界へ」開催</p>	<p>3月10日 名古屋コミュニケーションアート専門学校(現名古屋ECO動物海洋専門学校)と産学共同教育協定を締結</p> <p>特別展「プレートバリアリーフの世界へ」開催</p> <p>3月23日 アカウミガメ(CMW-06)が「日本動物大賞・功労動物大賞」を受賞</p> <p>7月11日 特別展「水族館のモンスター」開催</p> <p>1月31日 特別展「水族館のモンスター」開催</p> <p>12月17日 国立大学法人三重大学大学院生物資源学研究所と学術交流協定を締結</p> <p>3月29日 学校法人名古屋学院大学と連携協定を締結</p>	<p>7月16日 特別展「Dangerous Creatures (インシヤフス・クリーチャーズ)〜海で出会う危険な生き物たち〜」開催</p> <p>11月6日 特別展「Dangerous Creatures (インシヤフス・クリーチャーズ)〜海で出会う危険な生き物たち〜」開催</p> <p>4月29日 開館25周年記念特別展「くらげの刻(とき)〜漂(ただよ)い生きる不思議な生き物〜」開催</p> <p>10月1日 特別展「ズーアクアリウム〜水族館なのに動物園!?!〜」開催</p> <p>4月9日 特別展「ズーアクアリウム〜水族館なのに動物園!?!〜」開催</p>	<p>5月17日 ハンファホテル&amp;リゾート(株)との水族館相互交流発展のための覚書締結</p> <p>10月28日 特別展「カメ、知ってる?〜意外と知らない日本のカメ事情〜」開催</p> <p>5月27日 特別展「カメ、知ってる?〜意外と知らない日本のカメ事情〜」開催</p> <p>5月17日 当館初の人工授精によるバンドウイルカの繁殖に成功</p>	<p>7月14日 特別展「へん(だけど)カワ(イイ生き物)展」開催</p> <p>1月20日 新クラゲコーナー「くらげなごりうむ」がオープン</p> <p>7月21日 特別展「へん(だけど)カワ(イイ生き物)展」開催</p> <p>3月16日 特別展「寿司ネタ大集合〜水族館が斬る! 寿司のいろいろ〜」開催</p> <p>6月2日 特別展「寿司ネタ大集合〜水族館が斬る! 寿司のいろいろ〜」開催</p> <p>3月23日 南館ウミガメ回遊水槽がリニューアルオープン</p> <p>3月28日 南館ウミガメ回遊水槽がリニューアルオープン</p> <p>7月13日 特別展「カラフルコレクション〜絢爛華麗な水の生き物たち〜」開催</p> <p>1月19日 特別展「カラフルコレクション〜絢爛華麗な水の生き物たち〜」開催</p> <p>8月2日 累計入館者が5000万人を達成</p> <p>5月25日 日本初の常設の環境教育ルーム「エコ・アクアリウム」がオープン</p>	<p>5月25日 特別展「びつくり生物大集合〜究極の技を持つ水の生きものたち〜」開催</p> <p>10月4日 特別展「びつくり生物大集合〜究極の技を持つ水の生きものたち〜」開催</p> <p>12月18日 特別展「旅する水とめぐる海洋「ミのいま」」開催</p> <p>10月4日 特別展「旅する水とめぐる海洋「ミのいま」」開催</p> <p>9月25日 特別展「豊かな海をいつまでも〜旅する水とめぐる海洋「ミのいま」」開催</p> <p>9月27日 当館初のアオウミガメの繁殖に成功</p>			



鴨川シーワールドからやってきた3頭のシャチ(ピンゴ、ステラ、ラン)。



命名者の皆さんと対面するシャチのリン。



リニューアルしたサンゴ礁大水槽では生体サンゴの飼育展示を開始。



ブルーガのふしぎな魚の食べ方ハロウィンVer.。



大人気を博した特別展「寿司ネタ大集合〜水族館が斬る! 寿司のいろいろ〜」。



リニューアルされた南極ホール。生体展示と映像や標本がうまく融合されている。



特別展「水族館のモンスター」プロジェクトで飛び出すウツボ。



マタマタ、メキシコサラマンダーなど「へん(だけど)カワ(イイ生き物)展」。



新設されたくらげなごりうむ。幻想的なミズクラゲ水槽など様々なクラゲを展示。



ウミガメ回遊水槽はリニューアルに伴い足元までガラス面に。



エコ・アクアリウムでは海洋プラスチック問題など海の環境について学べる。



当館で初めてふ化したアオウミガメ。

## 「出張！藤前干潟 @名古屋港水族館」を開催

名古屋港水族館では開館30周年協賛事業の一環で、藤前干潟ふれあい事業実行委員会と共催して、ラムサール条約登録20周年を迎える藤前干潟を取り上げた「出張！藤前干潟@名古屋港水族館」を開催しました。会場では藤前干潟を写真や映像でわかりやすく解説しながら、クシテガニやウロハゼなど干潟にすむ生き物たちの展示や、記念撮影コーナーなどを設営し、多くのお客様にご覧になっていただきました。また、8月23日には、カモのミニ模型に色を塗って、フォトスポットで記念撮影ができるワークショップ「水族館deトリのミニ模型塗り！」も開催しました。

干潟は川と海が出会う場所にでき、多様な生き物たちがすむ場所で、海の水を浄化する大切な役割も担っています。この貴重な干潟を体験的に学べる名古屋市野鳥観察館や稲永ビジターセンター、藤前干潟活動センターが藤前干潟の周辺にあります。名古屋港は日本屈指の貿易港ですが、藤前干潟という大変貴重な干潟が残されています。これからも自然の素晴らしさや大切さを理解してもらうために同じ港に位置する名古屋港水族館も共に協働していきたいと思っております。



南館エントランスホールにて8月1日～9月25日まで開催しました。

■ 飼育展示第一課 中嶋 清徳

## イルカパフォーマンスに字幕が付きまして

メインプールにある横幅14m、高さ7.9mの大型画面はイルカパフォーマンスやシャチの公開トレーニングなど様々なイベントで活用されています。イルカが水中を泳ぐ姿や、ジャンプをする姿といったライブ映像はもちろんのこと、動物たちの野生での様子や解説用の動画、図といった様々な映像を映し出しています。

これまでのイルカパフォーマンスでは映像に合わせてトレーナーがナレーションをつけていましたが、今年の7月から日本語と英語の字幕を付けました。

字幕を付けたことで、耳の不自由な方や日本語が分からない方など色々な方にイルカパフォーマンスの内容を伝えられるようになったのではないかと思います。

イルカパフォーマンスの他に、シャチの公開トレーニングの一部にも字幕が付いています。より多くの方々に海の生き物の魅力が伝えられるよう、今後も工夫を重ねていきます。



字幕の内容はもちろんレイアウトやフォントサイズについても検討を重ねました。

■ 飼育展示第二課 大島 由貴

## 水族館トピックス

2022 秋

## 過去最多！ヒルギが咲いた

マングローブの水槽ではヤエヤマヒルギとオヒルギを植えています。今年は4月下旬からヤエヤマヒルギの花が咲き始め、8月初旬に最初のオヒルギの花が開花しました。今年はヤエヤマヒルギ、オヒルギともに例年に比べ非常に多くの蕾を付けており、オヒルギでは8月20日現在、3株が合計で20個もの花を咲かせています。同時期に咲いた数としては過去最多です。まだまだオヒルギの方は蕾がたくさん残っていますのでこの後もしばらく花を楽しめそうです。また、咲いた花を見つけた場合は人工的に受粉も行っています。これまでもいくつかの花で自家受粉を試みてはいますが、開花後に花が落下してしまいか実がなりません。今年は花が多い分、実がなる確率は高くなるはずと期待を込めて受粉の作業を行っています。実がどうかはわかりませんが、文字通り作業の結果が実をむすぶまで大切に見守りたいと思っております。

4月23日に開花したヤエヤマヒルギの花  
白く色づくとももなく開花の印



◀8月7日今年初めて開花したオヒルギ  
左右の赤色のものは蕾

■ 飼育展示第一課 岡本 仁

## 当館初の「水族館deモーニング」を開催！！

名古屋の名物と言えば「喫茶店のモーニング」と言えるほど、私たちの生活に馴染んでいますよね。これを、この秋30周年となる名古屋港水族館の、少し特別な夏休みイベントにできないか と考えて実現したのがこの企画です。

とはいっても夏休みは大変混雑しますので、いつもの開館時間より早い午前7時から限定100名で実施しました。貸切状態の館内をのんびり見学していただき、当館スタッフの開館準備作業など、普段見ることのできない水族館を大公開です！！

そして名古屋名物のモーニングは、南館のフードテラス「トータス」で、イルカやペンギンを可愛くあしらった、水族館らしいトーストセットをご用意しました。

当館初の試みでしたが、参加して下さった皆様から「楽しかった」との嬉しい感想もお聞きできました。参加した皆様の夏の思い出になれたのなら幸いです。



お客様から好評いただいた、名古屋港水族館オリジナルモーニングセット

■ 営業企画課 加賀 美月



## バンドウイルカにおける喉での体温測定の試み

飼育展示第二課 森 朋子

イルカたちの健康管理の一つに体温測定があります。当館では、イルカたちの体調変化にいち早く気づくために、ほぼ毎日、体温測定をしています。イルカたちの体温測定の方法として直腸温度を測定していますが、イルカたちの肛門内部に炎症が起こったりすると、直腸温度測定が実施できない場合があります。そこで、当館では、直腸以外の体温測定部位として喉における体温測定を試み、直腸温度と比較することにしました。

まず、直腸に疾患のない2頭のバンドウイルカに2020年8月から6ヶ月間、ランダムな日程で喉と直腸の温度の測定を行いました(図1)。イルカには事前にトレーニングを行い、安定して温度測定を行えるようにしました。喉温度は、イルカが顔のみを水上に上げる直立姿勢で喉にプローブを挿入し、口蓋と舌が接するためにプローブが見えなくなる部

位から挿入深度を10cmと20cmの2点で測定しました。喉温度が得られた後にイルカに腹上姿勢で、肛門から直腸に30cmプローブを挿入して直腸温度を測定し比較しました。なお、喉温度は餌などを飲み込んだ時に喉の温度が変化しないよう30分以上何も食べていない状態で測定しました。

喉と直腸の温度差(喉温度-直腸温度)を調べると、2頭とも喉温度と直腸温度の間には大きな差はみられず、バンドウイルカでは喉温度が直腸温度の代わりとなり、さらに喉への挿入深度が20cmの方がより良い指標になると考えられました(図2)。

これらの結果をもとに、脊椎湾曲症の「ハッピー」(さかなかな Vol.101「ダーウィンの箱」参照)に喉温度測定を実施することにしました。もともと、ハッピーは体の変形のために直腸温度の測定が困難で、不定期に陸上に取り上げて検査する時のみに測定していましたが、喉温度測定のトレーニングを行い3歳から計測を開始しました。その結果、以前に測定した直腸温度と喉温度に大きな違いが見られなかったことから、喉温度が体温測定に有効であると判断しました(図3)。

このように、疾患のために直腸温度が測定できないイルカたちも、現在もこの方法を使用して計測を行い、日常の健康管理に活用しています。



図1 直腸温度(左)と喉温度(右)測定の様子

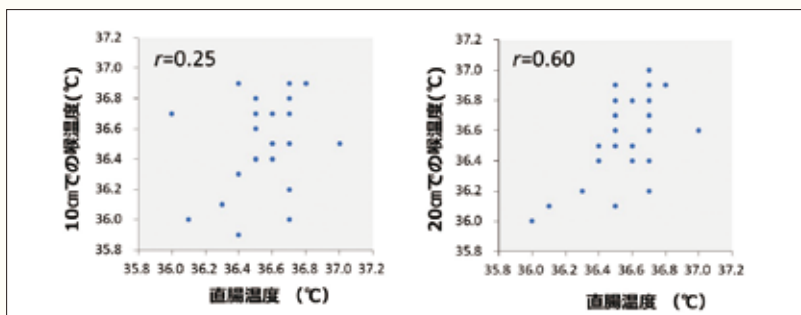


図2 ネオの直腸温度と喉温度の検定結果。相関係数(r)が1.0に近いほど相関関係が高い。

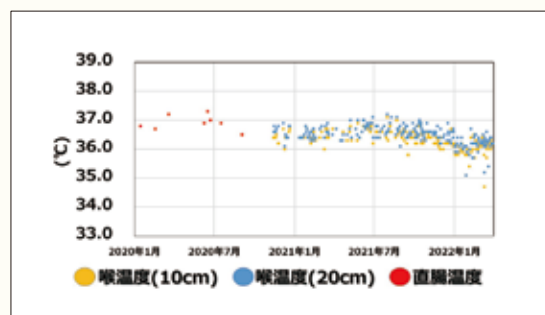


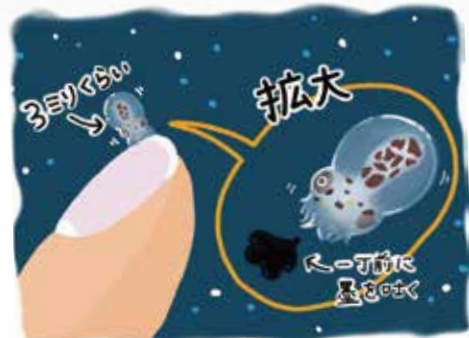
図3 脊椎湾曲症のハッピーの喉温度と直腸温度の結果。喉温度(20cm)の方がより直腸温度に近い。

## わたしのスケッチブック

マダコの赤ちゃん

飼育展示第二課 浅井 友梨

私は、タコの赤ちゃんが産まれるところを見たことがあります。身体は透明で腕も短く、水中をびよびよと動く赤ちゃん。最初は、本当にタコ...?と思いました。それでも、ちゃんと腕には吸盤がありくっついたり、ぱっくりした時は墨も吐いていました!見た目は小さくても、やっぱりタコだと、とても驚きました。



## ボランティア便り 私の館内おすすめポイント

Volunteer News

ボランティア 横江 邦博

### 私の館内おすすめポイント

#### 【南極ホール】南館3階

ペンギンの足跡に案内されて、すぐに拡大鏡をのぞくと世界中で唯一この水族館に常設されているナンキョクオキアミが。胸脚を小刻みに振るわせて運動する様子は、照明に映えて鮮やかで



氷山型のドーム内にはナンキョクオキアミやシワヒモムシの水槽が。

いつまでも見惚れてしまいます。

その隣、へんないきものシワヒモムシは人気

者。私のお勧め、南極大陸の岩石も一押し。見上げるとクロミンククジラの骨格と標本、足元を見れば基地が載った南極大陸の地図と解説ビデオもあるので足を止めて楽しんでね!



クロミンククジラの骨格標本と実物大レプリカ。足元から天井までじっくりご覧ください。

## 水族館スクールレポート School Report

### 「教員向け ウミガメオンライン講演会」を開催しました 学習交流課 市川 隼平

8月18日(木)、19日(金)に「教員向け ウミガメオンライン講演会」を行いました。

この講演会は、当館のこれまでのウミガメの飼育と研究が「ウミガメの命をつなぐ」という単元として小学4年生国語の教科書(教育出版)に掲載されていることから、小学校教員向けに開催したものです。講師は当館の飼育係で、執筆者でもある松田乾です。内容は教科書で紹介しきれなかったウミガメの生態や飼育の工夫、研究等です。



講演中の講師：松田 乾  
オンライン会議システムで全国とつながりました。



ウミガメ産卵用の人工砂浜。講演会で紹介した場所に当館職員が出向き、実況中継しました。アカウミガメ(矢印)が上陸しているタイミングでした。

これまでも名古屋市の小学校教員向けに行っていましたが、コロナ禍に対応してオンラインで行うことに伴い、対象地域を全国に拡げました。執筆者本人から直接話を聞けるということで、北海道、千葉県、東京都、静岡県、長崎県と全国各地から2日間で合計9校の参加がありました。参加者には、授業に向けて予備知識が欲しい方や教科書に載っている内容以外のことも伝えたいという方、ウミガメとその飼育に興味のある方もおられました。講演会後のアンケートでは、全員に授業の準備に役立つと喜んでいただけました。今後もこのような機会を通して、より多くの学校にウミガメについて知っていただければと思います。